



第3滑走路建設粉碎！騒音拡大許すな！

芝山文化センターに330人

私たちは3月26日、「空港機能強化粉碎！騒音拡大許すな！」を掲げ、芝山文化センターで集会を行い、330人の仲間とともに芝山町の中心部をデモ行進しました。

芝山町白栴の伊藤信晴さんの司会で、集会を開会。冒頭に、「天神峰農地強制執行との激闘の記録」のビデオ上映を行いました。

第1部は「強制執行との闘い」。成田市東峰の萩原富夫さんがあいさつに立ち、「強制執行と大衆的に多くの仲間と権力とひるむことなく体を張って闘い抜いた。そのことを全世界に示すことができた」と述べました。さらに共に強制執行と現場で闘った仲間からの発言を受けました。

大きな拍手の中、成田市天神峰の市東孝雄さんが登壇(2面に発言)。「最高裁決定から6年間、みなさんの力で執行させなかった。今後も旬の野菜を届けるために耕し続ける。国策と闘うすべての仲間と共に闘いたい。福島・沖縄・三里塚を一つの闘いとして。闘魂ますます盛んなり。明るく闘おう！」とアピールしました。

連帯のあいさつをいただいた後、第2部は「空港機能強化との闘い」。反対同盟と地元住民が闘いの前進を報告。協力が呼びかけられました。

集会の最後に決戦本部長の太郎良陽一さんが行動提起。「絶対に国家権力には負けないその決意で実力闘争をやり切ることができた。国家権力を倒す力がここにある。



▲雨天を衝き芝山町をデモ
330人が団結ガンパロー

闘いはこれからだ！ 共に闘おう！」と力強く呼びかけました。

集会後は雨の中をデモ行進。「市東さんの農地を返せ！ 第3滑走路反対！ 深夜の騒音拡大反対！ 殺人的騒音を許さないぞ！」とシュプレヒコールをあげました。

団結街道裁判

5月12日(金) 10:30 ~ @千葉地裁

耕作権裁判

5月22日(月) 10:30 ~ @千葉地裁

9:00 千葉市中央公園集合

集会後、千葉地裁に向けデモ

“団結の力で敵を追い詰めた 今後も畑を耕し、闘い続ける”

残念ながら強制執行はされました。しかし最高裁判決から6年、反対同盟も太郎良決戦本部長のがんばりと全国の皆さんの支援と、座り込み、泊まり込み、そういう形で権力側には相当な圧力がかかっていたと思います。6年も向こうは執行はできなかったのはそのためだと思っています。

NAAは、あらゆる意味で強制的な手段を用いないと言っているが、結局は夜中にこそこそやることしかできなかった。それはやはり皆さんの本当の団結の力で追い込んだからだと思います。

たしかに私にとって農地がなくなるということは、命をもぎ取られたという感じがありますが、まだ残っている畑があります。旬の野菜を消費者のみなさんに届けおいしいと言ってもらえることが私の喜びです。ですから、これからも耕し続けます。



市東孝雄さん

反対同盟は車の両輪として40年以上、動労千葉と共に闘ってきました。そして関西生コン支部、港合同といった労働組合との団結。市民運動、学生運動、国策との闘いで頑張っている方々と共にこれからも闘っていきます。福島、沖縄、三里塚を一つの闘いとしてこれからも闘います。「闘魂ますます盛んなり」の言葉を大事に、また明るく闘っていきましょう！（3月26日 芝山文化センター）

DVD 三里塚 2023

天神峰 農地強制執行 との激闘の記録

市東さんの天神峰農地取り上げ強制執行との激闘の記録をコンパクトにおさめたDVDを作成しました。夜陰に乗じてやってきた数百もの機動隊を前に一步も引くことなく、農地死守の徹底抗戦をつらぬく老若男女の仲間たち。マスコミ報道だけでは知ることのできない臨場感あふれる貴重な映像です。ご注文は反対同盟まで。（頒価500円・21分）



『新しい成田空港』構想は戦争への道

- ・ 3つの旅客ターミナルを壊し1つに集約
- ・ 軍事転用を見据えた大規模貨物地区建設

成田空港会社(NAA)は3月30日、『新しい成田空港』構想の中間とりまとめ(以下「構想」)を発表しました。

具体的には、①3つの旅客ターミナルを1つの新たな旅客ターミナルに統合する、②新貨物地区を建設、③連結する鉄道やバス、道路網の再編・増設などです。(右図参照)

●旅客ターミナルを縮小し倉庫群建設

NAAは昨年4月に第3ターミナルを拡張したばかりです。ところが、「構想」では2029年までに今ある3つの旅客ターミナルすべてを取り壊し、第2ターミナル南側に新設するターミナルに統合させ、C滑走路の外側には新貨物地区をつくり、空港の外の敷地の規制も緩和して農地転用を容易にし、倉庫群を建設するというのです。

●訪日客増加に対応するためというウソ

これまで、国とNAAは観光客の増加を機能強化(C滑走路新設、Bの延伸、空港運用時間延長)の理由としてきました。そして今も表向きはその理由を下ろしていません。ところが、「構想」では訪日客受け入れのための旅客ターミナルを縮小し、貨物地区を空港の内と外に押し広げようとしています。

『新しい成田空港』構想 将来配置イメージ

※今後の検討により変更が生じる場合があります。



●政府の本音は成田の軍事兵站拠点化だ

今回の「構想」は、浜田靖一防衛大臣が昨年12月に成田空港の軍事利用に言及したこと、閣議決定された「国家防衛戦略」に自衛隊と米軍が平時から民間空港の活用を進めると明記されたことと軌を一にするものであり、軍事と密接に結びついています。

政府の本音は機能強化と「構想」を推し進め、大型の貨物機を24時間に近いかたちで飛ばすことのできる空港建設なのです。

●戦争協力を拒否し、共に声を上げよう

成田から軍事物資がすでに運ばれています。住民と労働者の安全を無視する成田の軍事利用は絶対に認めることはできません。戦争のための農地取り上げと軍事物資のさらなる輸送を招く『新しい成田空港』構想に絶対反対の声を上げましょう。

地域住民の声

成田空港周辺住民がNAAと国に夜間早朝の飛行差し止めを求め千葉地裁に提訴しました（記事参照）。稲敷市の住民の声を紹介します。

◆稲敷市の将来のためにも眠れる夜と静かな朝を取り戻したい。 稲敷市 男性

A滑走路とB滑走路の間の北側の茨城

県稲敷市に住んでいます。茨城方面に飛行機が飛ぶと地区全体で自由に旋回するため、どの家の真上も飛ぶことがあり、非常にうるさい。しかも、2本ある滑走路に離着陸する飛行機が通るルート上なので騒音で頻度は倍です。

とりわけ、夜は貨物機が多く、機体が重く大きいので、騒音もうるさい。11時頃に布団に入っても騒音で目が覚めると、その後、なかなか眠れなくなります。空港機能強化が進められ、夜中の1時まで飛ぶと、本当に人間が生きていけない状況になります。

この地区には小中学校もあり多くの子どもたちが生活しています。将来のためにも「眠れる夜と静かな朝」を取り戻したい。

空港騒音で住民提訴 夜間飛行中止と賠償求め

成田空港を発着する航空機の騒音で被害を受けているとして、成田市など周辺5市町の住民ら計138人は31日、国と成田空港会社（NAA）を相手取り、夜間早朝の離着陸差し止めを求め千葉地裁に提訴した。NAAに対しては、騒音による睡眠障害など健康被害への損害賠償など約2億9300万円も請求した。

訴状によると、原告は成田市、芝山町、横芝光町、多古町のほか、茨城県稲敷市の住民ら。午後9時～翌日午前7時の間、航空機の離着陸やエンジン作動を禁止するよう求めている。原告団によると、成田空港では現在、午前6時～翌日午前0時まで離着陸が行われている。2029年3月までに予定される空港機能強化後は、午前5時～翌日午前1時までの離着陸が可能となり、飛行禁止時間は4時間に限られる。提訴後に記者会見した海渡雄一弁護士（67）は「住民は国内で最もひどい騒音被害に遭っている。眠れる夜と静かな朝を取り戻したい」と訴えた。NAAと国土交通省はいずれも「訴状が届いておらず、コメントできない」としている。